

平成29年度 袖ヶ浦市立図書館サービス状況 点検・評価

「袖ヶ浦市第3次図書館サービス網計画（後期）」〈5〉サービス目標 より

“「図書館は、そのサービス水準の向上を図り、図書館の目的及び社会的使命を達成するため「数値目標」を設定し、各年度の図書館サービスの状況について、図書館協議会の協力を得つつ、「数値目標」の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うとともに、その結果を市民に公表するように努めます。”

評価基準

- A：計画どおりに実施でき、一定の成果があった。達成率 80%以上
- B：課題はあるものの、概ね計画どおり実施できた。達成率 60%以上 80%未満
- C：不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。達成率 60%未満

後期計画の目標値については、平成28年4月に設定したものである。

平成30年9月
袖ヶ浦市立中央図書館

評価基準 A：計画どおりに実施でき、一定の成果があった。達成率 80%以上
 B：課題はあるものの、概ね計画どおり実施できた。達成率 60%以上 80%未満。
 C：不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。達成率 60%未満。
 ※目標値については平成23年策定の10か年計画の最終年対比

サービス目標（1）資料及び情報の収集、提供等

平成32年度想定 市人口 64,000人
 平成30年4月1日時点市人口 63,251人

サービス指標(☆は新指標)	実績(H.29)	目標(H.32)	達成率	
☆①図書購入タイトル数/購入冊数(%)	85.5	90.0	95.0%	A
☆②蔵書冊数(所蔵図書冊数)	688,359	710,000	97.0%	A
☆③市民一人当たりの蔵書冊数(冊/人)	10.9	11.1	98.2%	A
④袖ヶ浦市関係資料の受入冊数(冊/年)	303	270	112.2%	A
⑤年間利用者数(人/年)	146,180	155,000	94.3%	A
⑥市民新規登録者数(人/年)	1,159	1,200	96.6%	A
⑦市民登録率(%)	43.3	60.0	72.2%	B
⑧資料貸出数(点/年)市外含む総計	542,863	650,000	83.5%	A
⑨市民一人当たりの貸出数(点/人)	8.6	10.2	84.3%	A

(サービス内容)

「袖ヶ浦市立図書館資料収集規程」及び「袖ヶ浦市立図書館資料選定基準」に基づき、資料の整備に努めます。

第3次図書館サービス網計画の中で、資料整備については、「人口1人当たり10冊を基本に640,000冊を目標とします。」とうたっています。現在、蔵書冊数は65万冊を越え、前期の目標値は達成していますが、図書館資料については、最新の情報を提供し書架の新鮮さを保つためには継続的な更新が必要であることから、今後も開架資料の5%の更新を目標として、市民に多種多様な学習要求に応えられるように、幅広いタイトル数を購入するよう努めてまいります。

少子高齢化の急速な進行に伴い、図書館の利用についてはこの5か年で、資料貸出総数、新規登録者数等については減少傾向にあります。

図書館としては、利用者により資料に関心を持ってもらうための時宜的な資料展示やテーマ展示、また転入者への利用案内の配布、県立袖ヶ浦高校生に利用案内を配布するほか、今後も図書館資料の情報提供を進め、利用の拡大に努めます。

内部評価

○全体評価 : A

- ・新刊図書を購入するほか、郷土行政資料を中心に寄贈も呼びかけ、開架書架の図書334,897冊に対して14,310冊（うち購入図書13,269冊）を受け入れし、開架書架の約4.3%を更新することが出来た。（冊数は平成30年3月31日時点の数値）
- ・長浦おかのうえ図書館の医学関係図書や中央図書館の楽譜など、新鮮な情報が求められる分野や内容の古くなった資料について重点的に購入し、蔵書を充実させることができた。
- ・市民新規登録者数が、平成28年度から2年続けて増加した。
平成27年度：1,046人、28年度：1,128人、29年度：1,159人
- ・様々な形でのおすすめ図書の紹介、パスファインダーの作成、「本のおたのしみ袋」「えほんのふくぶくろ」など、年間を通じて大人向け、子ども向けそれぞれに新たな本との出会いを提供する企画を積極的に提供することが出来た。

○課題

- ・社会福祉の分野は、利用者からの関心が高く問い合わせも多いが、法改正に対応した図書の更新が十分に図られていない。
- ・文庫書き下ろしや古典文学の改訳の出版など、文庫版で出版されるケースが増えているが、中央図書館の現在の文庫架の容量では収納しきれない状況がある。
- ・市民の新規登録者数は増えているが、一方で10年間未利用による除籍者数の方が多いため、市民登録率は年々低下している。
- ・図書館からおすすめ図書を紹介する様々な取り組みにも関わらず、貸出冊数の減少は続いている。

○今後の対応

- ・平成30年度は社会福祉の分野の図書を積極的に収集し、より新鮮な書架となるように更新する。
- ・中央図書館に文庫棚を増設し、文庫本の充実を図る。
- ・市民課窓口での転入者への利用案内配布だけでなく、自治会回覧版による図書館事業の周知、新興住宅地へのポスティングなど、図書館の利用増、新規登録者の増につながる取り組みを強化する。
- ・図書館からおすすめ図書を紹介する各種の取り組み自体はいずれも好評なので、高齢者の関心が高まっている認知症関連コーナーをつくる、子ども向けにスタンプラリーを行うなど、貸出増につながる取り組みを今後も充実させていく。
- ・利用者アンケート調査を行い、利用者のニーズを把握する。

取り組み内容

<新規・一部新規・拡充>

- ・長浦おかのうえ図書館では医学関係図書を重点的に購入し、約10.8%（医学関係の開架図書3,754冊のうち平成29年度受入405冊）を更新した。（中央図書館の医学関係図書は約5.5%、平川図書館は約4.6%を更新） また、長浦おかのうえ図書館では医学関係図書と隣接した場所に「闘病記」コーナーを新たに設置した。

- ・中央図書館で収集している楽器演奏や合唱用の楽譜、千葉県内各地域の2万5千分の1地図（国土地理院発行）の買い替えを行なった。（楽譜53冊購入、地図25点購入）
- ・根形公民館図書室に中央図書館の文庫本を一部移管し、主に時代小説と推理小説の文庫本コーナーを新たに作った。
- ・利用者が図書を探しやすくなるように、冊数の多い4つの分類（302：各国事情、369：社会福祉、498：衛生学・公衆衛生等、783：球技）について、全館で開架図書のラベルを貼り替え、より細かくジャンル分けして排架することにした。例：783.1：バスケットボール、783.2：バレーボール）
- ・1月に、子どもたちに読書に親しむきっかけづくりとして新年企画「えほんのふくぶくろ」を全館で実施した。（全館で100セット、300冊の貸出）

<継続>

- ・おすすめ図書のリストを一般向けに2種類「男女共同参画社会関連図書リスト」「新成人に贈るお薦めの100冊」、パスファインダー（調べ案内）を一般向けに1種類「防災～地震・災害から身を守る」、児童向けに1種類「東京湾を調べる」を新たに作成したほか、以前に作成した一般向けパスファインダー「健康・医療情報」の改訂版を作成した。児童向けの調べ案内は、夏休み中の調べ学習において有効に活用した。
- ・市役所の市民課、長浦・平川行政センターに依頼し、転入者全員に図書館の利用案内を配布した。ブックスタート事業の中でも、参加者に個別に図書館の利用案内や新規登録の働きかけを行った。また、高校生向けの利用案内を作成し、袖ヶ浦高等学校の新入生全員に配布した。
- ・袖ヶ浦高等学校の生徒全員に、「図書館を使いこなそう」という利用案内（裏面は青少年向けのお薦め図書リスト「ティーンズ・トショロ」）を配布した。
- ・夏休み中に全館で「宿題おたすけコーナー」を設置し、児童の利用促進を図った。
- ・「秋のトショロ月間」において、中央図書館では「文化講演会」に関連して絵巻に関する本、長浦では「本で世界を旅しよう！」と題して海外の街並みや自然など外国の雰囲気を感じられる本を展示して貸出に供した（中央15冊、長浦85冊）。また、平川図書館、根形・平岡公民館図書室においては大人向けに「本のおたのしみ袋」を用意し、中身を見ないでテーマだけを参考に本を借りてもらう企画で、合計67袋、201冊を貸出した。

外部評価

○全体評価：A

○図書館協議会からの意見

市民登録率や市民一人当たりの貸出数の実績が低下しているため、図書館の利用状況や現在行なっている取り組みの効果について利用者の反応を分析し、新規登録や資料貸出の増につなげる、より効果的な働きかけを実行していただきたい。

サービス目標（２）社会情勢の変化に対応したサービスの充実

サービス指標(☆は新指標)	実績(H.29)	目標値 (H.32)	達成率	
⑩一日あたりのホームページアクセス件数 (件/日)	251.2	315	79.7%	B
⑪一ヶ月あたりのWeb予約件数(件/月)	2,530.7	2,250	112.5%	A
☆⑫学校図書館への対応 ・団体貸出総冊数(冊数/年)	3,034	6,000	50.6%	C
⑫学校図書館への対応 ・出張おはなし会参加者数(人/年)	3,492	6,000	58.2%	C
⑬レファレンス件数(件)	916	800	114.5%	A

(サービス内容)

①情報化社会への対応

今後も、ホームページの充実を図り、またメールマガジンの発行により、新着資料の情報提供や個々に関心の高い資料情報の提供を行うなど、より利便性の高い情報発信を行っていきます。

②学校図書館への対応

学校図書館への支援については、今後も引き続き、団体貸出、レファレンスサービス、学級文庫への読み物のセット貸出を行うなど学校図書館を通した子どもたちの読書への支援をさらに推進します。また学校を訪問してのおはなし会等を開催し、調べ学習の支援を行います。

③高齢化社会への対応

高齢者にとって、より利用しやすい図書館を目指し、今後も大活字本の提供、朗読CDの積極的な収集提供に努めます。

④関連施設・関係課との連携

他の公共図書館との連携により、市民への資料提供をより一層充実させます。また今後も他の公共図書館、学校図書館、博物館などの教育施設との連携を図り、子育て支援を推進し、図書館利用の促進のため、関係課との連携をより強化していきます。

⑤国際化への対応

国際化が急速に進展し、子どもから大人まで、市民が外国の文化に触れる機会も増大しています。より外国の文化を理解し、外国人に日本文化を紹介するための外国語資料の充実を図り、外国語による利用案内等を作成します。

⑥職業能力開発の要求への対応

労働を取り巻く環境の変化により就職、転職、能力開発、日常の仕事等で情報を必要とする市民は増加しています。こうした利用者に対応するための資料の収集・提供、適切なレファレンスの実施等、個人の学習ニーズに応える機能を高め、図書だけでなく、就労や資格取得のためのパンフレットやチラシ等による情報提供、インターネットを活用した情報や、法律・経済関連のデータベースの提供を行います。

⑦レファレンスサービスの充実と利用促進

レファレンスサービスについては、情報量が増大し、多種多様となっている現代社会において、課題解決のための支援はますます重要になっています。市民の課題解決支援に対応するために必要な図書資料及び電子資料の提供に努めます。

内部評価

○全体評価 : B

- ・パソコン版のホームページへのアクセス件数はやや減少したが、スマートフォンや携帯電話などモバイル用の検索サイトのアクセス件数は大幅に増加した。これに伴い、Web予約件数も平成27年度以降増加している。

(参考指標) 検索サイトを含めた1か月当たりの総ページビュー数

平成27年度253,569.0件、

平成28年度341,644.8件、平成29年度409,220.7件

- ・学校や関係機関との連携については、充実した様々な取り組みを行うことが出来た。
- ・レファレンスの処理件数は、年々増加している。

○課題

- ・インターネットの利用形態は、パソコンからスマートフォンやタブレット端末へ急速に移行しており、特にモバイル端末に対応したサービスは更に充実させていく必要がある。
- ・学校への団体貸出については、学校間での調べ学習用図書の貸し借りが充実してきたことから、図書流通システムによる図書館からの貸出は減少している。また、これまでセット貸出は主に学級文庫として朝読の時間などに利用されてきたが、朝読にも学校の図書室が利用されるようになってきたことから、ここ数年で大幅に減少した。セット貸出の本は、除籍した古い児童書を再活用しているため、今の子どもたちには興味を持たれにくいものになってきている。
- ・学校への出張おはなし会は、平成28年度に依頼のなかった学校の読書指導員に働きかけ、その後依頼してきた学校もあったが、全体としては図書館に対する依頼が減少した。
- ・高齢化社会が進行する中で、より高齢者向けの資料提供や事業を今後もより充実させていく必要がある。

○今後の対応

- ・図書館からの情報がより若い世代に行き届くように、イベント情報についてはホームページやメールマガジンだけでなく、市役所のツイッターでの発信も積極的に行う。
- ・図書館電算システムの次回更新に向けて、検索機能の強化など図書館のウェブサイトの更なる充実を図る
- ・学校図書館への対応として、図書流通システムだけでなく、セット貸出も含めた学校側のニーズを聞く機会を設ける。読み物については、テーマや季節の催しに即した図書の要望が多いことから図書館の資料を生かした対応についてPRしていく。
- ・学校でおはなし会に割ける時間は限られることから、小学校の「図書の時間」、中学校の「朝読」でのおはなし会の実施についても学校に対して提案していく。

- ・各小中学校で行われている読み聞かせ等のボランティア活動が定着してきているので、平成30年度に絵本の読み聞かせの大切さをテーマとした「子どもの本の講座」を行い、学校や保育所等にも参加を呼び掛ける。

取り組み内容

<新規・一部新規・拡充>

- ・3月に、メールマガジンの案内と登録画面のQRコードを全館のカウンターに掲示した。
- ・総合教育センターからの提案で、夏休み期間中に中央図書館のラウンジに調べ学習コンクール入賞作品のレプリカを展示し、調べ学習支援をより充実させることができた。
- ・秋のトショロ月間期間中に、根形小学校からの提案で、根形小学校6年生がおすすめする「名コンビ」をテーマにした物語をパンフレットと一緒に中央図書館と長浦おかのうえ図書館、根形公民館図書室（公民館まつり期間）で展示した。また、平川図書館では平川中学校図書委員と1年生によるおすすめ本を展示し、いずれも、子どもだけでなく大人からも好評であった。

<継続>

- ・ホームページやメールマガジンを通じて、図書館や読書に関する最新の情報発信を行った。悪天候による事業の中止（中央図書館中庭でのジャグリング）や会場変更（「著者を囲む会」）など急を要するお知らせについては、ホームページだけでなくメールマガジンを号外で配信して対応した。
- ・夏のトショロ月間では、「親子いっしょのおはなし会」として、袖ヶ浦高等学校生徒による読み聞かせを行った。また、中央館児童室では昭和中学校図書委員会による展示、長浦の市民ギャラリーにおいて蔵波中学校美術部員による作品展示を行った。
- ・秋のトショロ月間において、中央図書館の一般書架フロア等に根形中学校生徒が作成した絵画を展示した。
- ・中央図書館の青少年コーナーで「袖ヶ浦高校図書委員のおすすめ図書」を展示した（11月23日から3月末まで展示）。
- ・高齢者が利用しやすい資料として、朗読CDを中央、長浦、平川で合計33点、大活字本を根形公民館図書室を除く全館で95冊（45タイトル）購入したほか、大活字本の所蔵リストを更新した。
- ・総合教育センターが、中央図書館を会場に、毎年7月に開催している「調べ学習相談会」では、講師の助言を受けた参加者の要求に応じて図書館の職員が適切な資料を紹介、提供する形で連携し、小中学生の調べ学習を支援した。
- ・根形公民館の「ねこまる」（ねがたオープンキャンパス）や平岡公民館の通学合宿で公民館図書室を活用したほか、平岡公民館まつりでは、公民館図書室職員による「しおりづくり」を行った。また、市民会館の通学合宿の際も、子どもたちが事前準備をする際に参考になる本を団体貸出した。
- ・公民館の幼児家庭教育学級で、5館合同で絵本の読み聞かせに関する講座を行なった際に、図書館の司書が講師として参加し、子どもに対する読み聞かせの意義などについて話をした。
- ・郷土博物館からの資料提供を得て、袖ヶ浦市初の国史跡となった山野貝塚に関する展示を中央図書館で行なった。

- ・NPO「子どもるーぶ袖ヶ浦」主催の「わくわく子どもフェスティバル」に参加し、図書館職員とボランティアによる出張おはなし会を実施した。
- ・外国語資料については、文芸講座に関連して古典的な推理小説、児童書ではコルデコット賞を受賞した評価の高い絵本など34冊（いずれも英語図書）を購入した。
- ・ホームページ上で毎月、前月分の袖ヶ浦市関連新聞記事一覧を公開したほか、平成28年度1年間分の記事一覧を冊子体にまとめ、地域情報の充実を図った。
- ・市民の調査研究の支援のため、館内閲覧用の電子資料として新聞記事データベース、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを提供した。

日本経済新聞記事データベース閲覧件数44件（平成28年度 閲覧件数45件）

朝日新聞記事データベース閲覧件数 450件（平成28年度 閲覧件数113件）

国立国会図書館デジタル化資料閲覧件数31件（平成28年度 閲覧件数19件）

外部評価

○全体評価 : B

○図書館協議会からの意見

学校図書館への対応については、学校ボランティアや学校図書館の充実など、本市の児童生徒を取り巻く読書環境が向上してきたことから、司書の専門性や複数の図書館のネットワークで学校図書館をサポートできる本市の図書館の特長を活かして学校側のニーズを把握するように努めていただきたい。図書館の役割が変化しているのであれば、それに伴い、目標値の変更や次期計画の際は別の指標を設定することも検討していただきたい。

サービス目標（3）利用者に応じたサービス

サービス指標(☆は新指標)	実績(H.29)	目標値(H.32)	達成率	
☆⑭児童サービスの充実 ・ブックスタートにおける本の配布率(%)	84.6	100	84.6%	A
☆⑭児童サービスの充実 ・おはなし会参加者数[館内・館外の合計](人)	8,917	13,000	68.6%	B
☆⑭児童サービスの充実 ・お薦め本リストの発行(回/年)	4	4	100%	A
⑮青少年サービスの充実 ・お薦め本リストの発行(Y・A)	1	1	100%	A
⑮青少年サービスの充実 ・お薦め本リストの発行(ジュニア)	1	1	100%	A
☆⑯高齢者サービスの充実 ・大活字本の貸出冊数(冊/年)	4,254	5,000	85.1%	A
⑰障がい者サービスの充実 ・宅配サービス(冊/年)	339	350	96.9%	A
☆⑱図書館ボランティアの育成(名)	71	70	101.4%	A
⑲来館者満足度	アンケート 未実施	75.0		

(サービス内容)

①子どもたちのために

今後も子どもたちが読書の楽しさを体験し、本に親しむことのできる読書環境の充実に向けて、学校、幼稚園、保育所等との連携を図りつつ、「袖ヶ浦市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちの発達段階に応じた、わらべうたであそぼう、えほんのへや、おはなし会を開催するとともに、新たに健康推進課の4か月児教室において、ブックスタートを実施し、乳児期からのサービスを提供します。

②高齢者のために

今後も、高齢者に配慮した施設の整備を図り、大活字本などの資料の充実に努めます。また、社会福祉協議会、高齢者クラブ等の関係機関・団体との連携を図りながら、映画会、講習会等の読書普及事業の実施、図書館利用の際の介助など、きめこまかな図書館サービスの提供に努めます。

③図書館利用に障がいのある人のために

宅配サービス等の利用案内を引き続き広報等でPRに努めると共に、目の不自由な方へのサービスについても、要望があった場合には的確に対応できる体制を整えます。

④主体的に学ぶ市民のために

市民が読書に親しむ取り組みとして、図書館サークルやボランティアの協力を得ながら、市

民に親しまれる図書館を目指し、あらゆる世代に対し図書館の利用や読書に結びつくよう、各種講座・講演会、名画鑑賞会、資料展示等を開催していきます。また、公民館や博物館等の社会教育機関、学校、民間の関係機関との共催事業等、多様な学習機会の提供に努め、市民の情報活用能力の向上を支援するため、学習機会の提供に努めます。

- a. 余暇活動支援 b. 学習生活及び調査研究支援
- c. IT支援 d. 行政支援 e. ビジネス支援

⑤サークル活動をする人のために

市民が図書館資料を共有する中で交流し、暮らしに根ざした自主的な活動を展開していくことは、地域の文化活動を豊かにします。図書館では市民の文化活動、コミュニケーション活動の拠点として、図書館資料、施設を利用して活動するサークルに対して、その活動を支援します。

⑥ボランティア活動をする人のために

市民のニーズにあった事業を展開していくために、市民の知識や技術を生かした市民協働の図書館運営を目指し、新たに展示、映画会事業をはじめ、様々なボランティアを養成します。

内部評価

○全体評価 : A

- ・むかしむかしの会との共催によるおはなし会が、これまで平川図書館では参加者が少なかったことから、公民館まつりの中で開催（「秋のおはなし会」）したところ、参加者数も増えた。（平成28年度：6名、平成29年度：22名）
- ・平川図書館において、「おはなしの花たば」と題して子ども向けの事業を1日に集約して開催したところ、延べ47名（おはなし会15名、子ども映画会15名、かみのおはなやさん17名）の参加があり、相乗効果が図れた。
- ・文芸講座のテーマに推理小説を初めて取り上げ、開催日も土曜日に設定したことで、参加者の半数以上が初めての参加者となり、新たな参加者の掘り起こしに成果があった。
- ・ブックスタートボランティア養成講座を前年度に引き続き開催し、新たに9名のボランティアを登録した。都合により活動を休止するボランティアもあったが、ボランティアが合計で29名となり、ブックスタートの安定した事業運営が可能になった。
- ・平成28年度から養成を開始した映画会ボランティアは活動が2年目となり、映画会当日の運営だけでなく、定例会の中でプログラムの選定やアンケートの作成にも携わるなど、ボランティアとの協働による事業運営が定着してきた。

○課題

- ・出張おはなし会だけでなく、図書館内で行う定例のおはなし会についても参加者が減少していることから、より参加しやすい開催方法等を検討する必要がある。
- ・おはなし会を充実させるためには、ボランティアの継続的な養成による人員確保と技術向上が必要である。
- ・視覚障がい者用データベースについては、図書館と障がい者支援課にチラシを置いているほか市の広報でも図書館の特集記事に案内を掲載したが、利用者は増えなかった。

○今後の対応

- ・平川図書館では、3月に開催した「おはなしの花たば」が効果的だったので、今後もおはなし会は子ども映画会等のタイアップで行い、相乗効果を図る。
- ・中央図書館、長浦おかのうえ図書館のおはなし会は、子どもたちがより参加しやすくなるように、開始時刻を定めず、一定の時間の中で、おはなしを聞きたい子どもがいたらおはなしをする「おはなしのじかん」という形に、開催方法を改める。
- ・「おはなし会ボランティア養成講座」を開催し、初級編（絵本の読み聞かせ）の修了者には「絵本の読み聞かせボランティア」として活動してもらい、おはなし会ボランティアと一緒に出張おはなし会にも携わってもらうことで、素話への関心を喚起するとともに、おはなし会ボランティアの人員不足を補っていくようにする。

取り組み内容

<新規・一部新規・拡充>

- ・子ども向けの読書手帳を新たに作成し、4月から5月にかけて「子ども読書の日記念行事」として配布したほか、行事期間中に本を20冊借りた子どもには記念品として手作りのシールをプレゼントした。（読書手帳1,019冊、シール187枚）また、期間終了後には大人向けの読書手帳も作成し、図書館のホームページにフォーマットを掲載して、自由にダウンロードできるようにした。
- ・夏休み期間中の「夏のトショロ月間」、読書週間をはさんだ「秋のトショロ月間」をそれぞれ1か月にわたり開催し、様々な内容の催しを行なった。（夏のトショロ月間：1,400名参加、秋のトショロ月間：969名参加）
- ・平川図書館では、むかしむかしの会との共催によるおはなし会をこれまで12月に開催（「冬のおはなし会」）していたが、平成29年度は11月に公民館まつりの中で開催（「秋のおはなし会」）することとした。
- ・3月に平川図書館で「おはなしの花たば」と題して、子ども向けの定例の催し（おはなし会、子ども映画会、かみのおはなやさん）を1日に集約して開催した。
- ・中央図書館で3月に開催した、むかしむかしの会との共催による「春休みおはなし会」では、中庭を活用した催しとして、市レクリエーション協会によるゲームを行い、好評であった。
- ・市民との協働で図書館の事業をより一層充実させるため、おはなし会ボランティアを対象としたスキルアップ講座（全3回・延べ参加者44名）、映画会ボランティアを対象としたスキルアップ研修会（参加者6名）を実施し、ボランティアの人材育成を図った。
- ・11月には新たな分野の図書館ボランティアとして資料展示ボランティアを募集し、4名のボランティアが活動することになった。

<継続>

- ・ブックスタートを毎月、4か月児を対象に市の保健センターで実施し、幼児向け絵本と図書館の利用案内などの入ったブックスタートパックを年間で451セット配布した。
- ・夏のトショロ月間では、全館で「おしえて！きみのすきな本」（346名）「宿題おたすけコーナー」、中央において昭和中学校図書委員会のおすすめ図書展示（12名12点）、長浦において蔵波中学校美術部の作品展示（19名44点）を行った。また、例年実施している催しだけでなく、中央図書館と平川図書館で「えほんのふくぶくろ」（123袋369冊貸出）、

長浦では週替わりで高学年向けのおすすめ図書の展示、公民館図書室では「スタンプラリー」（54名参加）などの新しい企画も行なった。

- ・「秋のトショロ月間」において、高齢者向けの講座として、中央図書館では「鳥獣戯画」をテーマとした「文化講演会」（58名参加）、長浦では「転ばぬ先の法律講座」（46名参加）を開催したほか、図書館登録サークルによる作品展示やコンサート等を行なった。平川図書館と公民館図書室では大人向けの「本のおたのしみ袋」（67袋201冊貸出）を行なった。
- ・障がい者への宅配サービスでは、各々の利用者が希望するジャンルの図書リストを個別に作成して対応するなど、延べ59件で合計339冊の資料を提供した。視覚障がいのある宅配利用者には、視覚障がい者用データベースを活用し、デジタイズ図書を提供した。（利用者1名、貸出点数87点）
- ・「文芸講座」はこれまで純文学や日本の古典文学を主に扱ってきたが、平成29年度は推理小説の古典（シャーロック・ホームズ）を初めてテーマに取り上げた。
- ・図書館の名画鑑賞会で、資料展示とテーマを関連付けた上映を2回（展示「藤沢周平と海坂藩」に関連して邦画「たそがれ清兵衛」、展示「幕末志士の群像」に関連して邦画「竜馬暗殺」）、文芸講座「シャーロックホームズの魅力」との関連上映を1回（洋画「赤毛連盟」ほか）実施した。
- ・「著者を囲む会」（隔年開催）では芥川賞作家の羽田圭介氏を講師に招き、例年以上に幅広い年齢層から135名の参加があり好評であった。
- ・参加者相互の交流の機会をつくり、事業内容の理解を深めることを目的に、文芸講座の最終日には講師との懇談会、名画鑑賞会では上映後に感想を話し合う「シネマトーク」を年3回実施した。
- ・除籍した図書館資料の有効活用を図る「本・雑誌リユース・デー」（隔年開催、事業名を「図書館除籍資料リサイクル」から変更）では、公共性の高い団体へ優先的に提供しているが、子育て支援施設や認知症カフェ等、案内の送付先を拡大したことで参加団体が増えた。

外部評価

○全体評価 : A

○図書館協議会からの意見

映画会ボランティアによる事業運営が定着してきたことは評価できる。利用者に応じたサービスとして、より適切な障がい者サービスの周知方法、読みたい本を利用者に届けるという視点から、障がい者だけではなく、来館が困難になった高齢者への対応等を今後の検討課題としていただきたい。